

聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター（SVC）主催 第22回ピア・スーパービジョン 対談（大野和男・柏木昭）「ソーシャルワークにおけるスーパービジョン」



対談者 左：柏木昭先生 右：大野和男先生

2018年10月13日（土）、聖学院大学4号館4階4402教室にて「第22回ピア・スーパービジョン」（聖学院大学総合研究所人間福祉スーパービジョンセンター主催・SW-net〔聖学院ウェルフェアネット〕共催）が開催された。当日は、28名の参加者とともに、充実した時を持つことができた。

I部は大野和男氏（社会福祉士・精神保健福祉士、NPO法人ドレミファ会副理事長、元聖学院大学非常勤講師、聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンタースーパーバイザー）と柏木昭氏（聖学院大学名誉教授、聖学院大学総合研究所名誉教授、公益社団法人日本精神保健福祉士協会名誉会長、聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター顧問）による対談が行われ、コーディネーターを筆者が務めた。精神保健福祉士国家資格化に尽力された二人の対談はこれまでの精神保健福祉をめぐる歴史と両氏の実践の中から得られた経験値が折り重なり、まばたきする間も惜しいような濃厚な時間となった。

筆者が両氏と出会ったのは、大学卒業後、日本精神医学ソーシャルワーカー協会（現・公益社団法人日本精神保健福祉士協会）事務局員として働きはじめた頃だった。入職して間もなく、精神科ソーシャルワーカー単独資格を議員立法で創設することを臨時総会にて決定した年だった。国家資

格化に反対する声も多いなか、両氏はそれぞれ理事（大野氏）と会長（柏木氏）としてタッグを組んで、日本の精神科ソーシャルワーカー（以下、PSW）牽引し、足掛け10年かけて国家資格化へと導いた。両氏の確固とした信念はクライアントとのかかわりによるものであることを、今回の対談で改めて確認することができた。

まずは大野氏からレジメと資料元に話題提供がなされた。冒頭、「（ソーシャルワーカー）は人々の日々の暮らしのなかで生じたさまざまな困難な生活課題に直接的に関与できる唯一の専門職」であるという言葉から始まった。実のところ社会福祉士、精神保健福祉士は業務独占ではない名称独占の資格であり、その専門性や存在意義は常に危うさが背中合わせである。しかし大野氏のこの言葉で会場全体がまずエンパワメントされ、自覚を新たに対談に耳を傾けたのではないだろうか。その後、現在の社会的状況の変化によりPSWの置かれている状況も変化し、それによって求められることの多様化・複雑化に対応していくためにも、スーパービジョン（SV）の必要性を強調された。自身が昭和40年代半ばに体験した事例検討グループスーパービジョン（GSV）を紹介された。面接場面の録音テープと逐語記録をもとにスーパーバイザー（SVR）やスーパーバイザー（SVE）らとふりかえる。一つ一つに「なぜ？」と問われ、辛いながらも自身のあり様、自己覚知を深め、スキルアップしていったと話された。そして、SVRの信条として、上述した協会の設立趣意書を紹介された。また、PSWの専門性の構築の中で、Y問題（YさんがPSWによって不当に入院させられ人権を侵害されたと訴えた一連の事件）の後、10年間の組織としての自問自答の末、「札幌宣言（1982年）」としてPSWとしてクライアントとのかかわりのなかで積み上げてきた理念をまとめられた。そこにPSWは「対象者の社会的復権と福祉のための専門的社会的活動」を推進することを任務とするに至っ

た当時の経緯を紹介された。最後に、Y問題は終わっていない、として2015年に起きたクリニックに勤務するPSWが生活保護窓口で通院誘導していたという新聞記事を取り上げ、「現代的患者狩り」への警笛を鳴らした。

大野氏の話題提供を受けて柏木氏より、Y問題におけるご本人不在の「罪」という言葉を用いてPSWとしての重い教訓を繰り返し強調された。そして、「かかわり」を通して「クライアントの自己決定」の原理を改めて説いた。その「かかわり」のなかで、相手と共にある「自分を活用する」としてPSWの「自己開示」について述べられた。「今私はとても悲しい気持ちになった」「私はあなたの話を聞いてどうしたらいいのかと迷っている」など自身の今の気持ちを伝えることで、相手と「ここで、今」共にある（対等な）「かかわり」について具体的に述べられた。そして、ソーシャルワークにおける時間の概念を、絶対的な物理的な「クロノス」時間ではなく、相対的主観的な「カイロス」時間で考えることを説かれた。カイロスの時間概念で、それぞれの「ちょうど良い時間」を「時熟」（村上陽一郎）という言葉を用いて説明された。折しも筆者が時計を見た瞬間を見逃さずに「今、相川さんは時間を気にしていますが、これがクロノスの時間です」と説明され会場から笑いが溢れた。そしてPSWとして「クライアントの自己決定」「人と状況の全体性」「かかわり」の3点を強調し、時にホワイトボードを使いながら熱のこもった話をされた。

両氏の対談では、両氏が互いに日本におけるPSWの土台を共に作り上げて来られた同士として、また戦友としての信頼関係と同時に、「かずおちゃん」「あきらちゃん」と呼び合うお茶目な一面も見られ、あたたかい雰囲気のなかで進められた。

第Ⅱ部は第Ⅰ部の対談を受けて、参加者の皆様それぞれの自身の実践や体験、在学生は実習等に引き寄せながら、受容的な場の中で対話を展開した。

参加者からは「勉強することの必要性、現場力を磨く振り返りの良い機会となった」「自己開示の大きさを改めて学ぶことができた」「日々の業務を改めて振り返り聞くことができた」「忘れかけていた自己決定について改めて考える機会になった。」

「ワーカーの仕事の醍醐味を振り返られることができた」との声をいただいた。日々の業務を振り返り、気づきと学びの刺激を得た時間となった。

当日運営に協力されたSW-netの皆さま、事務局の皆さまに心より感謝申し上げます。

（報告者：相川章子 [あいかわ・あやこ] 聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科教授・当スーパービジョンセンターセンター長）

本

書籍のご案内

お近くの書店、Amazon.co.jpからお買い求めいただけます。

ソーシャルワーカーを支える 人間福祉スーパービジョン

柏木昭・中村磐男 編著

2012年5月21日
2,800円（税別）

「スーパービジョン」および「スーパーバイザーの養成」の重要性を明らかにする。



<福祉の役わり・福祉のこころ6> 「いま、ここで」のかかわり

石川到覚・柏木昭 著

2013年3月15日
700円（税別）

共感から出発して寄り添い、協働していく福祉の姿勢をそれぞれの視点から語る。



<福祉の役わり・福祉のこころ4> みんなで参加し共につくる

岸川洋治・柏木昭 著

2011年9月10日
700円（税別）

福祉の実践が「人間の尊厳、生きがいが尊重される実践」となるために。新しいコミュニティの創造に取り組む。



聖学院大学出版会 TEL:048-725-9801 FAX:048-725-0324
URL:https://www.seigpress.jp/